



Cフェースのハイライトであるリッジ登攀がこの前後で展開する。すぐ背後には熊ノ岩も見える。

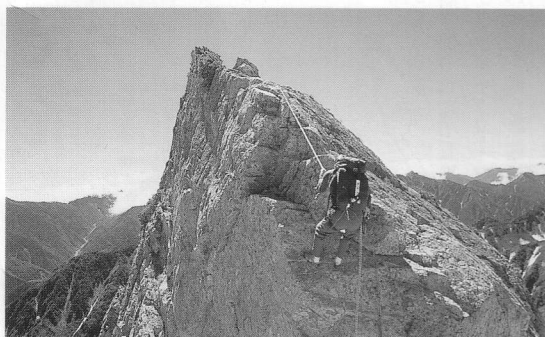
ノ窓側を通っている。Dフェースの頭、VI峰（Eフェースの頭）に上がる。VI峰からは三ノ窓側へ脆い岩場をクライムダウンか、20mほど懸垂をする。降り立った先には三ノ窓側にクレオパトラニードルの脇からチンネの頭直下へ続くトラバース道がついている。チンネへ継続する場合やエスケープに利用できるコースだが、VII峰、VIII峰、ハツ峰ノ頭を通らないのでここを辿ったのでは上半を縦走したことになる。

縦走は稜に絡んでいく。VII峰の登りは傾斜はあるが、草付も少なく岩は堅く安定している。大半がII級、部分的にIII級程度なので思い切って登ることができ。落ちればただではすまない場所も多いので、怖いと思ったらビレイをしよう。VII峰からは長次郎谷側の岩の間を通り、階段状の岩場をVIII峰とのコルへ下る。VIII峰は三ノ窓側のレンゼ状の快適な岩を登る。ハツ峰ノ頭との鞍部への下りは、短いが急なので10mほど懸垂をする。フィナーレのハツ峰ノ頭へは急なカン

テヘガリーを右上していく。懸垂でロープを出した後なので疲れを感じたらそのまま確保していこう。登りきったハツ峰ノ頭は小さいピークだが、富山湾、剣尾根や池ノ谷など剣岳西面の展望が広がる。目的のルートは登り切ったが、頂上まではもうひと踏ん張りが必要だ。池ノ谷ガリに懸垂かクライムダウンで下り、後は本峰まで北方稜線の縦走路を行く。

縦走路といっても、浮石があるガレた場所のトラバースもあるし、急な岩稜の直登もあり、気は抜けない。

剣岳本峰に立つ。長いコースもここからは下りだ。別山尾根は一般ルートだが、鎖場、岩場が連続す



VIII峰からの10mほどの懸垂下降。

プランニング

ベースと日程●上高地から涸沢まで6時間に対し、室堂から沢沢までは3時間強、入山点の標高も高く、距離も短い。問題は剣が日本海側で夏場も天候がぐずつくことが多く、チャンスが掴み難いという点と、黒部立山アルペンルート利用は交通費がかさむ点だ。

幕営指定地外だが、長次郎谷二俣上の熊ノ岩をベースに利用するパーティーも多い。VI峰取付までは10分ほど。水も取れ、展望も抜群の素晴らしい場所だ。僅れの名クラシックルート、チンネ左稜線に登る場合、沢沢からのアタックは今の感覚だとかなり遠いが、熊ノ岩からならば余裕である。別山平からさらに3時間弱、横尾から涸沢まで入るのと大差はないが、疲れていると「剣東面の眺望が素晴らしい別山平でいいや」と足が出ないかもしれない。今回のコースだけならば、早出をすればベースキャンプを上げる必要はない。

余裕のあるプランは初日沢沢別山平泊、2日目にアタックし、3日目に下山。小屋泊まりで軽装の場合、余裕があれば3日目に源次郎尾根を登って下山も可能ではある。

転進・エスケープ●Cフェース剣稜会ルートは人気があり、非常に混む時がある。転進ルートとしてAフェース魚津高ルートあたりを念頭に入れておくとよいだろう（ルート図参照）。

ハツ峰上半を縦走する時間的余裕がない場合は、踏跡を辿ってV・VIのコルへ下るが、コル直前の岩場が急で、視界がきかず初めてだと判断が難しいところだ。上から見て踏跡は最後の方でいったん三ノ窓側の左へ降りていくが、再びV・VIのコル側の右へ切り返して、急な岩場を降りていく。しかし、もしそのまま左に行く行き詰まる。確実な方法は左へ行かず、Aフェースの頭から少し下った右側の支点から懸垂下降することだ。約50mで途中に支点があるので2回に分けても良い。

私自身の失敗経験だが、久しぶりのVI峰フェース登攀の後、雨。ガスが出る中、踏跡が判然とせず、下の状態もコルの位置もよく分からないまま、最後、懸垂で降りたところが三ノ窓側に入ってしまった。シュルントの走る急な雪渓が眼前に広がり、正直どうなることかと思った。相方は新人、自分がどうにかするしかなかった。雪渓のシュルントを降りて登り、側壁を伝い、どうにかV・VIのコルへ登り返せた。アイスバイルがなかったらどうなっていたか、雪渓の状態によっては危険でもあっただろう。



ハツ峰ノ頭への最後の登り。右下に見える岩峰はクレオパトラニードル。

る。暗くなるとガレ場の下りは道が分からずらしい。明るいうちに下りきるように、時間を読みながら行動していこう。

DATA

参考タイム●室堂（2時間半）別山乗越（40分）沢沢別山平（1時間）長次郎谷出合（1時間半～2時間）VI峰Cフェース取付（1時間半～2時間）終了点・VI峰（2時間）ハツ峰ノ頭（1時間）本峰（2時間半～3時間）沢沢別山平

登攀具・共同装備●（個人）ヘルメット、ハーネス、安全環付きカラビナ2～3、確保下降器、ヌンチャク4、カラビナ4、スリング5、ヘルメット、アイスバイル、足回りはアブローチはアイゼンのつく登山靴、岩場でフラットソール（共同）50mのダブルロープをパーティーで2本（シングルも可）、ハーケン・カム等少々、ツェルト

足回り・雪渓●雪渓の登下降部分が長いのでアブローチ、下山の歩行にはアイゼンのつく登山靴タイプを使う。スパッツまでは必要ないが、日中に雪渓上を歩く場合はサンングラスもあった方がよい。

2万5千図●剣岳